

## 研修報告書 No28

研修施設:聖マリアンナ医科大学 研修医

今回、聖マリアンナ医科大学病院の研修の一環で、高知県で1か月間地域医療を経験させていただきました。高知県における地域医療を選択した理由としては、地元が鹿児島という事もあり、自分も将来地域に根付いた医療を行いたい、実際に地域医療の現場を見に行きたいという希望があったからです。

高知研修の期間中、外来や手術の見学、病棟業務、救急医療、訪問診療や出張診療所における診療や特別老人ホームなどの介護施設の見学等を経験させていただきました。

外来や病棟業務を通してまず思った事は、現在研修している病院との雰囲気が全く違うという事です。病院の規模や患者さんの数が違うのはもちろんの事ですが、医師が患者さん一人ひとりの状態を非常に細かく把握しており、また医師・看護師等、医療従事者同士の連携もしっかりとれているなどといった印象を受けました。やはり大学病院では、来院数が多く、一人ひとりの患者さんとコミュニケーションを取る時間が少ないという事はありますが、患者さんが話しやすい空気作りを行ったり、看護師さんのサポート体制を充実させる事で患者さん一人ひとりの細かい状態把握につながっているといった印象を受けました。また、今回の病院では救急医療も体験させていただきました。大学病院における救急医療は最後の砦であり、最新の設備を駆使して診断・治療を迅速に行っていますが、地域における救命病院には最新の設備はなく、もちろん出来る検査や治療も限られています。何が重要なのか、何が必要であるのか。やはり、経験が必要だと思いました。たくさんの症例を経験する事で、患者さんの全身状態を素早く観察し、緊急性を見極め、早期の診断・治療にたどり着く事が重要ではないかという風に感じました。

その他にも訪問診療や出張診療所における診察、訪問看護、介護施設の見学等を経験させていただきました。デイサービス等の介護施設の見学では、利用者の方の送迎や入浴・排泄の介助、利用者と百歳体操をしたりしました。普段は何気なく他のケアマネージャーの方をお願いしていたところを実際に見学し、体験するという事はとても新鮮でした。また、出張診療所では、実際に診療所に来られた患者さんの診察を行ったりしました。実際に診察したのは少数でしたが、患者さんの診察に対する気配りや協力があり、コミュニケーションをいつもより取れているなどといった実感があり、診察を行う上での心構え等、大変勉強になりました。しかし、近くに病院がない事で、治療を受けたくても十分な治療を受けられない患者さんがおり、都心と地域医療の格差を感じると共に、これらの格差がなくなるように今後対策を立てていかなければいけないという事も感じました。

今回、高知における地域医療で、今まで体験しなかった様々な施設を見学したり、多職種の方について様々な分野を勉強させて頂くと同時に、実習を通して、今後の地域病院のあり方やどのようにして医療格差をなくしていかないといけないかなど、考えがえさせられる期間でありました。将来、この経験を生かし、地域に根付いた病院を築けるよう努力していきたいと思えます。